

惑星科学夏の学校2004

佐々木貴教¹，結城倫¹，鈴木絢子¹，石橋高¹，能美仁博¹，小西悌之¹

1. 惑星科学夏の学校

1.1 地球磁気圏との共同開催

多くの皆様のご協力により、2004年8月25日から27日にかけて静岡県国立中央青年の家にて、「2004年惑星科学夏の学校」を無事開催することができました。惑星科学夏の学校とは、日本惑星科学会のご支援のもと主に若手の学生を対象に、惑星科学や周辺学問について自由に議論できる場を提供し、学生相互の交流、研究意欲の促進をはかる場です。今年度は「地球電磁気・地球惑星圏学会サマースクール」との合同開催を復活させ、異なった研究分野間での交流や議論を深めることもできました。これからの惑星科学を担う若者が一同に集い、お互い良い刺激を与え合うことができ、参加者にとって非常に内容の濃い3日間であったことと思います。

1.2 テーマは「太陽系の形成と進化」

今年度は、惑星科学の全体を俯瞰することを目的とし、また近年の太陽系外惑星の発見をうけて変革を迫られている惑星形成論の現状をうけて、「太陽系の形成と進化」というテーマを掲げました。我々の住む太陽系がどのように形成され、何を経験し、どう進化してきたのか。新しく発見されている「異形の惑星」たちは、これまでの太陽系形成論にどのような改良を求めているのか。これからの惑星科学にとっての重要な研究テーマとなることは間違いありません。

上記のテーマのもと、小久保英一郎先生（国立天文台）による招待講演、および学生による研究発表を行

いました。小久保先生には、最新の太陽系形成シナリオについての解説、および異形の系外惑星系の形成をも説明するためのシナリオの一般化の考え方についての紹介をしていただき、今後どのようなテーマについて研究を進めるべきかについて深く考えることができました。

2. 開催概要

今年の夏の学校は地球電磁気圏との合同開催でした。去年に引き続き、多くの方が参加しやすいように開催期間を2泊3日と従来よりも短くし、参加費も最低限度に抑えました。また去年好評だった学生講演、ポスター発表を今年も取り入れました。

1日目は午後から受け付けを開始し、開校式を経て地球電磁気圏側の招待講演（安成哲三先生；名古屋大学地球水循環研究センター、名古屋大学21世紀COE「太陽・地球・生命圏相互作用系の変動学」拠点リーダー）で幕を開けました。安成先生の講演は、「地球科学」とは何であるのか、これからの「地球科学」がどのような指導原理とサイエンスを目指すべきか、という啓蒙的な内容でした。夕食・入浴のあと、懇親会が行われました。懇親会では学生によるポスター発表も行われ、初対面の人たち同士でも話が弾んでいきました。こうして1日目の夜はふけていきました。

2日目は午前中に地球電磁気圏側の学生講演3時間、午後から惑星科学側の学生講演3時間が行われました。同世代の仲間たちの研究発表を聞き議論しあうことで、各自の今後の研究に対するモチベーションを大きく高

1. 東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻

めることができました。その後、疲れた頭を癒すべく広大なグラウンドや施設を用いてレクリエーションを行いました。また夜は再び懇親会が開かれ、昼間の講演をうけて学生間の活発な議論・交流が行われました。

最終日は惑星科学側の招待講演（小久保英一郎先生；国立天文台）をもって今年の夏の学校の締めくくりとなりました。CG や映画を用いて汎惑星系形成論構築の最前線を分かりやすく紹介して下さった小久保先生の講演に、参加者はみな興味深く聞き入っていました。その後、閉校式・記念撮影を行い、無事に今年の夏の学校を終えることができました。

3. 謝辞

夏の学校の準備の手順や過去の夏の学校の様子等について、前回の幹事校の方々にはたくさんのアドバイスをいただきました。また日本惑星科学会からのご支援により、遠方からの学生への旅費補助等を行うことができました。さらに、お忙しい中スケジュールを調整して講演して下さった先生方のおかげで、内容の濃い夏の学校になったと思います。最後に、素晴らしい環境を提供して下さった国立中央青年の家、およびそのスタッフの方々に深くお礼申し上げます。

Appendix. 来年度の惑星科学夏の学校について

今年度の夏の学校は、上に述べたとおり参加者にとっては十分に有意義なものとなったようですが、現行のシステムについては問題が多々あると我々は認識しています。最も大きな問題は、リピーターの数が極めて少なく、特に博士課程以上の人の参加が少ない点です。そのため基本的に新しく入ったM1同士の交流の場としてしか機能しておらず、惑星科学会若手全体の底上げとしての役割を果たしているとは言い難い状況にあります。このまま幹事校を順繰りに回して情性的に会を存続させていくことは、後援していただいている日

本惑星科学会にとっても、また将来の日本の惑星科学の発展にとっても、あまり意味のあることだとは思えません。

そこで我々は、様々な方と議論をした結果、来年度の夏の学校の幹事校をあえて決めずに、今後の夏の学校のありかたについて皆様に考えて頂こうと思います。この方針に対して意見のある方、より有意義な夏の学校の開催を自ら提案される方は、東京大学の佐々木貴教（takanori@eps.s.u-tokyo.ac.jp）までご連絡ください。皆様からの、つまり惑星科学会の内側からの強い要望が何も出なかった場合には、夏の学校の存続意義そのものを問う必要が出てくると思います。



集合写真



招待講演の様子